

横浜市要介護認定事務センターより

VOL.6

～特記事項を記入する上でのお願い～

横浜市の全ての調査員様へ

3つの評価軸「能力」「介助の方法」「有無」のうち

今回は「能力」の評価軸について、再確認していただきたい内容をお知らせいたします。

◆調査項目の選択肢の選択及び「特記事項」記載の流れ

能力で評価する調査項目の選択基準

能力

調査対象者に実際に行ってもらう、あるいは状況を聞き取る

確認できる
(実際に行ってもらう)確認できない
(状況を聞き取る)日頃の状況と異なる場合
(より頻回な状況で選択)

より頻回な状況で選択

「できる」
を選択「できない」
を選択「できる」
を選択「できない」
を選択特記事項への
具体的な記載特記事項への
具体的な記載特記事項への
具体的な記載特記事項への
具体的な記載

基本調査票

特記事項

①「能力」の項目の選択の基本は確認動作の「試行」です。

②試行の結果が、より頻回な「日頃の状況」と異なる場合は「日頃の状況」に基づいて選択します。

③日頃の状況とは日頃の「習慣」や「介助されているかどうか」ではなく、日頃からできることが多いかどうかで判断します。

認定調査員テキスト2009改訂版

P.20 (1)能力で評価する調査項目の選択基準

調査時に確認動作ができるかできないか、更に日頃の状況と同様なのか、異なる場合はより頻回な状況で選択することについて、次のとおり事例を挙げます。

【事例】 1-5「座位保持」

選択基準「背もたれがない状態での座位の状態を10分間程度できるかどうか」

確認動作ができた。 日頃の状況と同じ。

【特記事項】 調査時は10分程度、テーブルに肘をついて座位保持。
日頃も同様。

【選択肢】 2.自分の手で支えればできる

確認動作ができた。 日頃の状況と異なる。(頻回な状況で選択)

【特記事項】 調査時は10分程度、テーブルに肘をついて座位保持。
日頃は腰の痛みで背にもたれないとできないことが頻回。

【選択肢】 3.支えてもらえればできる

確認動作ができない。 日頃の状況と異なる。(頻回な状況で選択)

【特記事項】 調査時は腰の痛みにより動作確認はできない。
日頃はテーブルに肘をついて座位保持できることが頻回。

【選択肢】 2.自分の手で支えればできる

確認動作ができない。 日頃の状況と同じ。(頻回な状況で選択)

【特記事項】 調査時は腰の痛みにより動作確認はできない。
日頃もできないことが頻回。

【選択肢】 4.できない

【確認テスト】 以下の特記の場合、どの選択肢を選択すればよいですか。 (※答えは裏面下)

背もたれがない状態での座位の状態を10分程度保持できる能力は確認でき、日頃の能力も同様である。ただし、いつもは居間で背もたれやクッションに寄り掛かりくつろいでいる。

A：できる

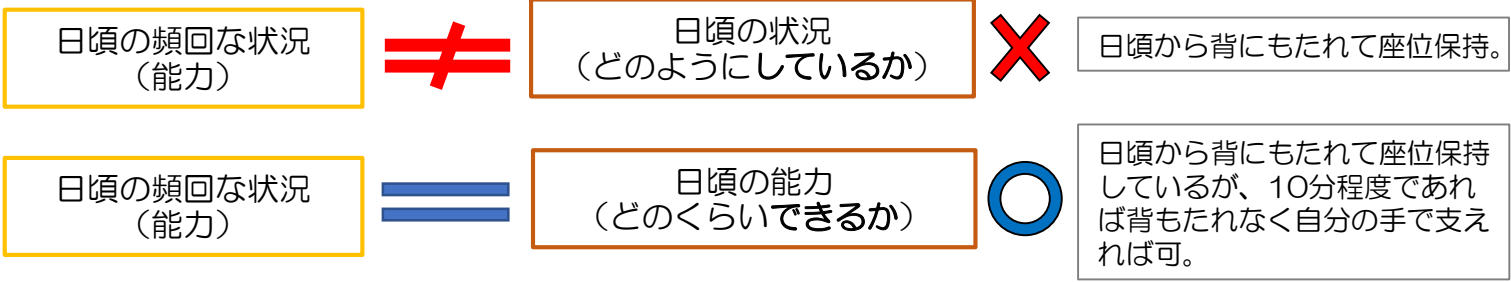
B：自分の手で支えればできる

C：支えてもらえればできる

D：できない

評価軸「能力」における「日頃の頻回な状況」とは？

能力を問う項目であるため、普段どのようにしているかを問うのではなく、**普段どの程度能力を有していることが多いか**という観点から選択します。



「日常の頻回な状況」を聞くときの例

受診の時、丸椅子に座って先生のお話を聞くことができますか？

お食事の時は背もたれに寄りかからず召し上がっていますか？



横浜市認定調査票（概況調査）の記載について、記入誤りが増えています。ご提出前に**再確認**をお願い致します。

横浜市認定調査票 (概況調査) 10

調査実施日 令和 0年 1月 日

I 調査実施者(記入者)

記入者氏名 所属機関 電話

II 調査対象者

対象者氏名 生年月日 昭和 年 月 日 (歳)

横浜市認定調査票 (概況調査/特記事項) 30

調査日 令和 年 月 日

認定調査票 (概況調査)

IV 調査対象者の家族状況、調査対象者の居住環境(外出が困難になるなど日常生活に支障となるような環境の有無)、日常的に使用する機器・器械の有無等について特記すべき事項を記入してください。

認定調査票 (特記事項)

概況調査と特記事項には、**個人が特定できる地名、病院名**などは記載しないでください。

- ① 「調査実施日」は調査した日付を正しくご記載ください。
- ② 「I 調査実施者 (記入者)」の所属機関、電話番号欄を正しくご記載ください。
- ③ 「II 調査対象者」の対象者氏名・生年月日を正しくご記載ください。
- ④ 「調査日」は①と同じ日付をご記載ください。
- ⑤ 「認定調査票 (概況調査)」は以下の内容を記載してください。
調査対象者の「家族状況や居住環境」、「日常的に使用する機器・器械の有無等」

次回VOL.7では、「能力」「介助の方法」「有無」の3つの評価軸から「**介助の方法**」について、再確認していただきたい内容をお知らせいたします。